

「上田飛行場 第四格納庫跡」 戦跡看板設置について

上田市教育委員会より要請があり、桐葉館入口に下記の看板が設置されました(4/20設置)

上田飛行場 第四格納庫跡

ここ中之条地籍には、第二次世界大戦中、陸軍の上田飛行場がありました。

この飛行場は、昭和六年(一九三一年)に「市営上田飛行場」として開場しましたが、昭和八年(一九三三年)には陸軍省に献納され、軍用機の飛行訓練場となりました。

現在の上田千曲高等学校の敷地は飛行場のほんの一部で、拡張後の最終的な飛行場面積は17万坪(約56万㎡)となり、西は下之条保育園付近、北は千曲川堤防沿いまで広がっていました。

また、この飛行場からは、昭和二十年(一九四五年)の四月から五月にかけて、二回にわたり特攻隊員が九州に向け飛び立っており、同年八月十三日には、上田市で二度目となる米軍の空襲を受け、付近の住民一人が犠牲となりました。

上田千曲高等学校同窓会館が建つこの場所には、飛行場に四つあった格納庫の中で一番大きな第四格納庫(間口18間、奥行33間、建坪約600坪)がありました。この格納庫は戦後、上田千曲高等学校等の講堂や教室等として使われました。昭和二十七年(一九五二年)には、取り壊されましたが、格納庫等として使われていた当時の礎石が現在も残されており、市内に残された戦争遺跡の一つとして、今に伝えていきます。

平成二十七年(二〇一五年)三月

上田市教育委員会



